



●全札所を  
結ぶ  
情報紙

発行所／伊予鉄不動産株式会社  
「へんろ」編集部  
松山市平和通6-98 ☎089(948)3192  
監修  
四国八十八カ所霊場会  
印刷／松山 アマノ印刷  
・1部 60円 ・郵送料 60円  
・1年契約 1,440円(郵送料込み)

昭和59年7月16日  
第3種郵便物認可  
毎月1日発行

# 毎年5日間、7年で結願

## 明德短大歩き遍路体験学習

今治明德短期大学の歩き遍路体験学習が九月十五日、結願した。

「自立心、忍耐力、連帯感を身に付け、自然との共生、地域文化に関心をもつ人づくり」を目指し、遍路体験学習を正規のカリキュラムに取り入れたのは平成十三年。初年度は地元の岩屋寺から前神寺を歩き、

今治明德短期大学の歩き遍路体験学習が九月十五日、結願した。以来、一年生(地域文化論受講生)が毎年五日間ずつ歩き、七年と二日、合わせて三十七日で一巡した。十四日早朝、大学から一宮寺まではバス。学生、教職員合わせて二十四名は、予定通り七時に出発した。しかも、屋島の急坂に苦戦

し、約一時間遅れで洲崎寺に到着した。初日から重い足どりで志度寺に向かう。長尾寺へはさらに七キロ余、全員が到着したころにはすでに日が暮れかかっていた。十五日は六時出発。前山おへんろ交流サロンは平常八時開館、しかも毎週水曜日休館に

## 「支え合って自信ついた」

れて到着。

関野真理さんは介護福祉コースの学生。「育ててくれた母と兄の病が治るよう、手を合わせた。これからは自分が支えていきたい。まず自分を鍛えたい」。小松純子さんは社会人入学生。「適度な運動と美味しい食事、そして健康をテーマにしたが、"適度"ははるかに越えていた。しかし、お接待は暖かさ

無事、結願。大窪寺本堂前で



高野山町石道を行く



巾着をお接待する藤野さん(左側)



と力をもらえる。この体験は大切にしたい」と話す。

今年結願と聞き、卒業生も参加した。野村京子さんは、十三年度歩いた一期生。仕事の合間を利用して初日、一緒に歩いた。野村さんは「今回、誘ってもらい嬉しかった。五日間は貴重な体験。歩ききったこと、仲間と支えあったことが今も自信になっている」。

社会人入学のOB藤野啓之さんは、現在デイスターの施設に勤務。利用者のおばあちゃんと相談してお接待用の巾着を作成、返信用のがきを添えて三十個持参した。志度寺で出会った佐藤真人さん(三三、滋賀県)に手渡しながら、「旅先からおばあちゃんたちに、このはがきで近況を知らせてください」。便りを受け取ったおばあちゃんたちが、どんなに喜ぶだろうか。

この後、霊山寺に参拝。十七日に高野山の町石道を登り金剛峯寺、奥の院に詣で十八日帰着した。

## 編集部から

平成十三年、今治明德短大は「歩き遍路体験学習」を正規のカリキュラムに取り入れた。以来、毎年五日間ずつ歩き、今年結願した。

「歩き通すことで何を学べるのか知りたい、と思いつつながら始めた歩き遍路」。この年、岩屋寺から前神寺を歩いた遍路一期生・野村京子さんのレポートの序文である。

最終日、横峰寺を下り香園寺に着いたころは殆どの学生がダウン寸前。野村さん一人が元氣そうに振舞っていた、と記憶している。自分も疲れていないはずはないのに、友達の手を握りつづけたママを手当てしたり、マッサージをしてあげたり。。「ゴールの前神寺では体調を崩した仲間が健康を願う、貴重な体

験に感謝して拜んだ」と結んでいた。

今年結願するということで、野村さんは初日の一宮寺・長尾寺を一緒に歩いた。

もう一人、平成十八年に三十九番延光寺から大寶寺を歩いた社会人入学生・藤野啓之さん(当時四〇歳)も参加した。藤野さんは現在勤めているデイサービス施設の利用者が作った、お接待用の巾着を持って。

詳しくは本文のとおりだが、今治明德短大・歩き遍路体験学習の歴史はこうして連続していると続いているのだ。教室で学ぶことのできない遍路体験は、これからの人生の肥やしになるだろう。

何も分らず、手探りの状態でここまで育ててきた大学関係者、そして初年度から関わった筆者の感慨もひとしお。